逗子の景観まちづくり

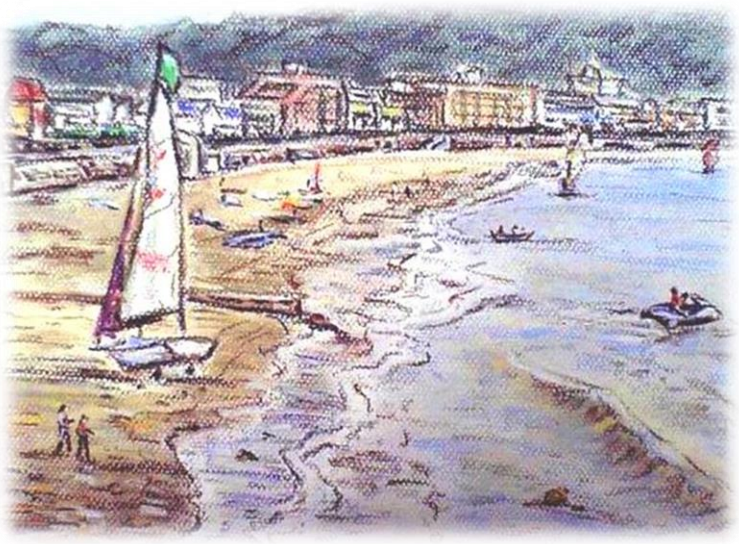
瓦版 第八十八号

二〇二五年十二月十五日　次号は一月発行予定
編集　逗子市環境都市部まちづくり景観課
協力　ＮＰＯ法人逗子の文化をつなぎ広め深める会
募集　逗子の景観スケッチや六百五十字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九－八六八六
逗子市逗子五丁目二番十六号
「逗子市まちづくり景観課　瓦版係」
電話　〇四六－八七三－一一一一
ファックス　〇四六－八七三－四五二〇
machi@city.zushi.lg.jp

新宿のお地蔵さん

桜山の谷戸から海辺目指して散歩に出る。冬は山影の肌寒い家から厚着で発つが、新宿辺は日当たり良く暑い。同じ市内でこうも違うか、と上着を脱ぐ。目指すは「貝殻地蔵」。色々な貝殻が敷き詰められたお堂の中に並ぶ地蔵、馬頭観音、五輪塔にさえ、頭に可愛らしい貝殻を被せてもらっているのが愉快で、勝手に「貝殻地蔵」と呼んでいる。本名は「松林様」らしい。鎌倉から披露山を越え、稲荷社から富士見橋方面へ続く東西の古道沿いの松林におわしたのがお名前の由来だろうか。今は、久木方面からの道と交わる四ツ角から浜へ向かう南北の通り沿いに引っ越しされている。コロナ禍で外出禁止だった夏、コッソリ出かけて撮った写真を見直すと、前掛け、頭巾、頭の貝殻が今と異なり、時折お召し替えされていると気づく。首から上の病にご利益あり。薄毛にも効くか、と拝んでみる。



秋の逗子海岸：木下俊延

地蔵さんはいつから海辺の街を見守っているのだろう。明治初期小坪村の文書に台座の銘と同じ名が覗えるが同じ方か否か判らない。昭和三年刊『逗子町誌』に「地蔵尊（略）由緒不明、〇〇氏の祖先と伝う」とある。明治以前に遡るのかもしれない。

今年の海も盛況だったが、「逗子ホテル」開業の大正十五年は「一時四萬の人々が濱邊に集まった」。地蔵近くに住んでいた作家池谷信三郎は、その秋「川端が泊りに来て…」と書いている。その池谷宅一階に小林秀雄と女優が同棲しており、翌年夏、女優の元カレ中原中也が来訪。中也は母宛に「小林とボートを漕ぎました」と書いている。同じ頃、竹久夢二の元カノ美人作家がホテル横に住んでおり、徳田秋声が滞在。醜聞で新聞記者が押しかけた。地蔵さんは、そんな昔日の賑わいも見ていただろう。

地蔵堂から、今は昔となったホテルの跡を過ぎ、波打ち際の貝殻をザクザク踏んで、桜山の山影に戻る。

イラスト：のだ まこと

文　のだ まこと

『まちなみデザイン：目指せ建築家！模型をつくろう』

-逗子の景観まちづくり-
「まちなみデザイン逗子とは」

令和７年７月に県立逗子葉山高等学校において、逗子市まちづくり景観課主催の模型づくり WS『まちなみデザイン：目指せ建築家！模型をつくろう』を実施しました。

参加者のみなさんが逗子のまちなみを知り、模型製作を通じてまちづくりや住宅計画の過程を習得しました。敷地内外の様子や住宅の詳細など、自ら考え製作した模型を並べ、まちなみとして捉えると色々な気付きがあり、それぞれに共有されました。心地よいまちなみをつくるために、できることを考えるよい機会となりました。

■「まちなみデザイン」チェックシート

敷地

- □ どこに配置する？（日当り・風通し）
- □ どんな形の家？（玄関の位置）
- □ どんな屋根にする？
- □ どんな色の家？
- □ 窓の位置・バルコニーは？（景色・風通し）

建物

- □隣の家との境界は？（緑・フェンス）
- □庭をどうしたい？
- □車は持ちたい？ 駐車場はどこがいい？
- □緑はどこにあるといい？
- □緑はどれくらいあるといい？
- □道路との関係は？

- □ 道路を歩く人はどう思う？
- □ 隣に住んでいる人はどう思う？

Pick up

「まちなみデザイン」チェックシートは、模型製作過程で気を付けて欲しい内容を、敷地内外・建物本体に分け、チェック項目として挙げています。製作しながら試行錯誤する過程での確認作業や、完成後の見直し等、参加者のみなさんがそれぞれの目的で活用しています。

講義中盤のボリュームチェック！
屋根勾配の向きや隣家との間隔、建物配置などの確認作業をしています。

模型完成！まちなみを考慮し、デザイン性に富んだ模型が並びました。

「沼間まちあるき」

2025 年 11 月 16 日、ＮＰＯ逗子文化の会の企画（７名参加）で、沼間の歴史を探る旅に出かけました。案内役は三浦一族の末裔で歴史に造詣の深い三浦恒義さん。旅の始まりは、ＪＲ東逗子駅。かつては「沼浜郷」と呼ばれ歴史の舞台であったとの説明に驚かされます。昔この辺りまで入り江が広がっていたことが地名の由来です。最初はヨークマート脇の「荒神社」へ。田越川下で処刑された三浦胤義の遺児を預かっていた矢部尼を祀った神社です。田越川沿いを「海宝院」、「光照寺」と進み、「沼浜亭」跡と思われる石垣へ向かいました。沼間在住の参加者から「沼間といえば七頭の大蛇」と伝承を伺い、まちあるきの楽しさが増しました。ゴールは、源義朝が邸宅の鎮守として勧請したと伝えられる「五霊神社」。「沼間鍛冶」という集団がいたという話も興味深く、義朝の武具が打たれていたかもしれない、と想像を膨らませました。旅を通じて、何気なく通り過ぎている街の片隅にも深い歴史が息づいていることを実感しました。

文：本川祐治（逗子文化の会）

瓦版編集担当　逗子市環境都市部まちづくり景観課

まちを楽しくするFacebook 逗子の景観まちづくり いいね！してね！

逗子市 HP やフェイスブックも見てね！

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。